

気象業務百五十周年記念式典  
気象庁長官 謝辞

本日ここに、天皇陛下の御臨席を仰ぎ、内閣総理大臣、衆議院参議院両議長、最高裁判所長官をはじめ、多数の御来賓の御列席をいただき、気象業務百五十周年記念式典が挙行できましたことは、誠に感激に堪えません。

気象業務は、この百五十年間、人々の生活や社会活動を自然災害から守るため、常に新しい技術を取り入れて、気象や地震・火山などの自然現象を絶え間なく監視し予測することで、必要な情報を発信する役割を果たしてまいりました。

本日皆様からいただいたお祝いの言葉は、戦争の困難な時期も含め、これまで百五十年間気象業務に携わった者たちにとって、この上ない喜びであり、ここに代表して深く感謝申し上げる次第であります。

私どもといたしましては、気候変動や頻発する自然災害に、一層的確に対応できるよう、この百五十周年を節目に、新たな時代を切り開いてまいる所存です。

結びに、御列席の皆様方におかれましては、気象庁をはじめとして、気象業務に携わるすべての関係者に、絶大なるお力添えを賜りますようお願い申し上げますとともに、気象業務の発展のために全力で取り組むことを関係者一同決意し、本日の謝辞といたします。

令和7年6月2日  
気象庁長官 野村 竜一